

國學院大學学術情報リポジトリ

新学習指導要領における“昔くらし体験”の扱い

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 船津, 涼子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000471

新学習指導要領における “昔くらし体験”の扱い

How to handle “old life experience” in the new course of study

船津 涼子

FUNATSU Ryoko

はじめに

1990年代初頭から少しずつ増えてきた博物館と学校の連携は、1998年に改訂された学習指導要領の施行によって全国的に拡大し、この間における博学連携に関する研究も蓄積されてきた。学校教育と社会教育を通しての「生涯学習」の観点からも、博物館での教育普及事業の必要性は周知の事実である。

歴史系博物館における博学連携の代名詞となっている「昔くらし体験」については、活動内容や運営の仕方が定着してきており、博物館・学校側の両者において「例年通り」として活動が引き継がれている。しかし、2020年の学習指導要領の完全実施に伴い、「昔くらし体験」は内容の扱いが変わっている。その変更内容は文章量の多さや分かりにくさから現場の教員でさえすべてを理解しているとは言い難い⁽¹⁾。また博物館においても「例年通り」ではない活動を模索している様子が伺える⁽²⁾。本稿では、新学習指導要領における「昔くらし体験」の内容の取扱いを確認したうえで、これからの博学連携における「昔くらし体験」の具体的な活動案を教師の視点で提案し、さらに学習指導要領に準拠した博物館での企画展の取り組みを紹介し、その成果と課題についてもふれていく。

1. 学習指導要領改訂における“昔くらし体験”の扱いの変化

1-1. 平成20年度小学校学習指導要領

平成20年度小学校学習指導要領において、“昔くらし体験”と関わるのは第3学年及び第4学年の内容（5）である。

（5） 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

解説では（5）について

「見学、調査したり年表にまとめたりして調べ」とは、ここでの学習の仕方を示している。ここでは、博物館や郷土資料館などを見学し、道具を観察したり、それらの道具が使われていたころの生活の様子、古くから伝わる文化財や年中行事の内容やいわれなどを聞き取ったりすることや、調べたことを時間の経過に沿って整理し、今昔の違いや移り変わりの様子をまとめたりすることなどが考えられる。

「博物館や郷土資料館などを見学」という文言があることから、教科書各社がこの単元において博物館や郷土資料館の写真や学芸員のインタビューを載せている。そのため、この単元を行う時期に多くの学校が博物館、資料館に社会科見学に行くことになった。解説（５）は以下のように続く。

「人々の生活の変化」を考えるようにするとは、昔の道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子を調べることによって、地域の人々の生活の今昔の違いや変化、過去の生活における人々の生活の知恵を考えることができるようにすることである。（筆者中略）こうした過去の生活における人々の知恵や願い、地域の発展に尽くした先人の働きについて学習することは、地域の伝統や文化を受け継いできた人々の生き方に触れ、地域社会に対する誇りと愛情を育てることにつながるものである。

解説（５）によると、最終的には「地域社会に対する誇りと愛情を育てる」ことに繋げるという道徳的要素もふくまれていることが分かる。さらに、（５）アを指導する際に次のことをおさえる必要があるとしている。

ここでは、道具そのものの変遷を学習することで終わることなく、それに伴って、地域の人々の生活がどのように変化してきたのかを考えることができるようにすることが大切である。「それらを使っていたころの暮らしの様子」を調べるとは、古くから残る暮らしにかかわる道具を使っていたころの人々の暮らしの様子を取り上げ、地域の人々の生活が変わってきたことを具体的に調べることである。

つまり道具の変遷を教科書で学ぶだけでなく、その道具を使っていた当時の暮らしの様子や人々の生活の向上の様子を総合的に調べることを目的としている。

実際の指導に当たっては、社会科を学習する児童にとって初めての歴史的な内容であることに配慮し、見学や体験を取り入れるなど、学習が具体的に展開できるようにする必要がある。例えば、地域の博物館や郷土資料館などにある昔の道具を観察したり、高齢者や父母からかつて生活に使用していた道具の使い方を教わり体験したりする活動が考えられる。

3年生の児童の発達段階を考えると、歴史的内容を想像しにくい。そのため教科書に加えて、実物資料を用いて実際に動かすなどの体験的な学習を通して理解を深めることを促している。

1-2. 平成29年度小学校学習指導要領への改訂

次に平成29年度小学校学習指導要領において“昔くらし体験”と関わる第3学年の内容（4）をみしてみる。

（4） 市の様子に移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。

（イ） 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア） 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

安野功（安野2018）によると、小学校3年生の社会科学習内容は、平成20年版までは「身近な地域や市の様子」「地域にみられる生産や販売の仕事」「古くから残る暮らしに関わる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」の3つが、新学習指導要領では「身近な地域や市の様子」「地域にみられる生産や販売の仕事」「地域の安全を守る働き」「市の様子に移り変わり」の4つとなった。しかし、総時数は70時間と変わらないため、「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」の内容が「交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること」をねらいとした「市のような移り変わり」へと大幅な内容改善がなされたという。

平成20年度版では「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」を学ぶ内容であったので、多くの小学校で博物館や郷土資料館で体験学習を行っていた。民具などの本物を用いて追体験をすることによって、今昔の生活の違いや人々の工夫や知恵を学び、郷土愛を育てることに繋がっていた。しかし新学習指導要領では“昔くらし体験”は「市や人々の生活の変化」の中に組み込まれることになり、体験等の時数が削減されたと考えられる。

（4）アの（イ）に「聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること」とあることから、令和版の3社の教科書がすべて「市の様子に移り変わり」の単元のまとめで年表づくりを取り上げている。指導要領の内容の取扱いでは「年表などにまとめる」際の時期の区分について、「昭和・平成などの元号を取り上げるようにする。また、明治、大正などの元号や江戸時代などの言い表し方があることを取り上げることも考えられる。年表に元号などを位置づけて、市の様子に移り変わりを年代順に整理できるようにすることが大切である」と元号指導について初めて明記されていることから、「おじいちゃんの子どものころ」

ではなく元号を用いて指導することが可能になった。これは児童の祖父母世代も戦後生まれとなった現状に対応した変更と考えることができる。

2. 令和版の各教科書会社の“昔くらし体験”の扱い

現行の社会科の教科書は令和版より光村図書が撤退した為、東京書籍・教育出版・日本文教出版の3社である。この3社とも“昔くらし体験”が含まれる単元は3学期扱い、または後期扱いとし、実施時期は主に2月3月となる。旧学習指導要領の時期と同じである。

2.1. 東京書籍の“昔くらし体験”の扱い

東京書籍の第3学年社会科の年間指導計画は図1⁽³⁾の通りである。

月	学期	単元名	回数	小単元名	学習指導要領の 内容	教科書の ページ
4	1学期 前期	1 わたしやまち、みんなの 暮らし	1	～導入(入り組み)～	(1) 177～178、21 (2)	6～7
5	1学期 前期	2 地域の暮らし	2	1 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	8～12
6	1学期 前期	3 地域の暮らし	3	2 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	13～17
7	1学期 前期	4 地域の暮らし	4	3 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	18～22
8	1学期 前期	5 地域の暮らし	5	4 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	23～27
9	1学期 前期	6 地域の暮らし	6	5 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	28～32
10	1学期 前期	7 地域の暮らし	7	6 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	33～37
11	1学期 前期	8 地域の暮らし	8	7 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	38～42
12	1学期 前期	9 地域の暮らし	9	8 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	43～47
1	2学期 前期	10 地域の暮らし	10	9 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	48～52
2	2学期 前期	11 地域の暮らし	11	10 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	53～57
3	2学期 前期	12 地域の暮らし	12	11 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	58～62
4	2学期 前期	13 地域の暮らし	13	12 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	63～67
5	2学期 前期	14 地域の暮らし	14	13 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	68～72
6	2学期 前期	15 地域の暮らし	15	14 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	73～77
7	2学期 前期	16 地域の暮らし	16	15 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	78～82
8	2学期 前期	17 地域の暮らし	17	16 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	83～87
9	2学期 前期	18 地域の暮らし	18	17 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	88～92
10	2学期 前期	19 地域の暮らし	19	18 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	93～97
11	2学期 前期	20 地域の暮らし	20	19 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	98～102
12	2学期 前期	21 地域の暮らし	21	20 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	103～107
1	2学期 前期	22 地域の暮らし	22	21 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	108～112
2	2学期 前期	23 地域の暮らし	23	22 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	113～117
3	2学期 前期	24 地域の暮らし	24	23 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	118～122
4	2学期 前期	25 地域の暮らし	25	24 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	123～127
5	2学期 前期	26 地域の暮らし	26	25 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	128～132
6	2学期 前期	27 地域の暮らし	27	26 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	133～137
7	2学期 前期	28 地域の暮らし	28	27 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	138～142
8	2学期 前期	29 地域の暮らし	29	28 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	143～147
9	2学期 前期	30 地域の暮らし	30	29 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	148～152
10	2学期 前期	31 地域の暮らし	31	30 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	153～157
11	2学期 前期	32 地域の暮らし	32	31 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	158～162
12	2学期 前期	33 地域の暮らし	33	32 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	163～167
1	2学期 前期	34 地域の暮らし	34	33 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	168～172
2	2学期 前期	35 地域の暮らし	35	34 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	173～177
3	2学期 前期	36 地域の暮らし	36	35 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	178～182
4	2学期 前期	37 地域の暮らし	37	36 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	183～187
5	2学期 前期	38 地域の暮らし	38	37 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	188～192
6	2学期 前期	39 地域の暮らし	39	38 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	193～197
7	2学期 前期	40 地域の暮らし	40	39 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	198～202
8	2学期 前期	41 地域の暮らし	41	40 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	203～207
9	2学期 前期	42 地域の暮らし	42	41 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	208～212
10	2学期 前期	43 地域の暮らし	43	42 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	213～217
11	2学期 前期	44 地域の暮らし	44	43 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	218～222
12	2学期 前期	45 地域の暮らし	45	44 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	223～227
1	2学期 前期	46 地域の暮らし	46	45 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	228～232
2	2学期 前期	47 地域の暮らし	47	46 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	233～237
3	2学期 前期	48 地域の暮らし	48	47 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	238～242
4	2学期 前期	49 地域の暮らし	49	48 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	243～247
5	2学期 前期	50 地域の暮らし	50	49 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	248～252
6	2学期 前期	51 地域の暮らし	51	50 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	253～257
7	2学期 前期	52 地域の暮らし	52	51 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	258～262
8	2学期 前期	53 地域の暮らし	53	52 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	263～267
9	2学期 前期	54 地域の暮らし	54	53 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	268～272
10	2学期 前期	55 地域の暮らし	55	54 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	273～277
11	2学期 前期	56 地域の暮らし	56	55 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	278～282
12	2学期 前期	57 地域の暮らし	57	56 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	283～287
1	2学期 前期	58 地域の暮らし	58	57 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	288～292
2	2学期 前期	59 地域の暮らし	59	58 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	293～297
3	2学期 前期	60 地域の暮らし	60	59 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	298～302
4	2学期 前期	61 地域の暮らし	61	60 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	303～307
5	2学期 前期	62 地域の暮らし	62	61 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	308～312
6	2学期 前期	63 地域の暮らし	63	62 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	313～317
7	2学期 前期	64 地域の暮らし	64	63 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	318～322
8	2学期 前期	65 地域の暮らし	65	64 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	323～327
9	2学期 前期	66 地域の暮らし	66	65 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	328～332
10	2学期 前期	67 地域の暮らし	67	66 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	333～337
11	2学期 前期	68 地域の暮らし	68	67 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	338～342
12	2学期 前期	69 地域の暮らし	69	68 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	343～347
1	2学期 前期	70 地域の暮らし	70	69 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	348～352
2	2学期 前期	71 地域の暮らし	71	70 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	353～357
3	2学期 前期	72 地域の暮らし	72	71 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	358～362
4	2学期 前期	73 地域の暮らし	73	72 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	363～367
5	2学期 前期	74 地域の暮らし	74	73 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	368～372
6	2学期 前期	75 地域の暮らし	75	74 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	373～377
7	2学期 前期	76 地域の暮らし	76	75 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	378～382
8	2学期 前期	77 地域の暮らし	77	76 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	383～387
9	2学期 前期	78 地域の暮らし	78	77 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	388～392
10	2学期 前期	79 地域の暮らし	79	78 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	393～397
11	2学期 前期	80 地域の暮らし	80	79 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	398～402
12	2学期 前期	81 地域の暮らし	81	80 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	403～407
1	2学期 前期	82 地域の暮らし	82	81 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	408～412
2	2学期 前期	83 地域の暮らし	83	82 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	413～417
3	2学期 前期	84 地域の暮らし	84	83 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	418～422
4	2学期 前期	85 地域の暮らし	85	84 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	423～427
5	2学期 前期	86 地域の暮らし	86	85 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	428～432
6	2学期 前期	87 地域の暮らし	87	86 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	433～437
7	2学期 前期	88 地域の暮らし	88	87 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	438～442
8	2学期 前期	89 地域の暮らし	89	88 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	443～447
9	2学期 前期	90 地域の暮らし	90	89 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	448～452
10	2学期 前期	91 地域の暮らし	91	90 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	453～457
11	2学期 前期	92 地域の暮らし	92	91 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	458～462
12	2学期 前期	93 地域の暮らし	93	92 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	463～467
1	2学期 前期	94 地域の暮らし	94	93 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	468～472
2	2学期 前期	95 地域の暮らし	95	94 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	473～477
3	2学期 前期	96 地域の暮らし	96	95 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	478～482
4	2学期 前期	97 地域の暮らし	97	96 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	483～487
5	2学期 前期	98 地域の暮らし	98	97 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	488～492
6	2学期 前期	99 地域の暮らし	99	98 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	493～497
7	2学期 前期	100 地域の暮らし	100	99 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	498～502
8	2学期 前期	101 地域の暮らし	101	100 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	503～507
9	2学期 前期	102 地域の暮らし	102	101 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	508～512
10	2学期 前期	103 地域の暮らし	103	102 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	513～517
11	2学期 前期	104 地域の暮らし	104	103 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	518～522
12	2学期 前期	105 地域の暮らし	105	104 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	523～527
1	2学期 前期	106 地域の暮らし	106	105 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	528～532
2	2学期 前期	107 地域の暮らし	107	106 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	533～537
3	2学期 前期	108 地域の暮らし	108	107 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	538～542
4	2学期 前期	109 地域の暮らし	109	108 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	543～547
5	2学期 前期	110 地域の暮らし	110	109 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	548～552
6	2学期 前期	111 地域の暮らし	111	110 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	553～557
7	2学期 前期	112 地域の暮らし	112	111 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	558～562
8	2学期 前期	113 地域の暮らし	113	112 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	563～567
9	2学期 前期	114 地域の暮らし	114	113 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	568～572
10	2学期 前期	115 地域の暮らし	115	114 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	573～577
11	2学期 前期	116 地域の暮らし	116	115 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	578～582
12	2学期 前期	117 地域の暮らし	117	116 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	583～587
1	2学期 前期	118 地域の暮らし	118	117 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	588～592
2	2学期 前期	119 地域の暮らし	119	118 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	593～597
3	2学期 前期	120 地域の暮らし	120	119 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	598～602
4	2学期 前期	121 地域の暮らし	121	120 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	603～607
5	2学期 前期	122 地域の暮らし	122	121 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	608～612
6	2学期 前期	123 地域の暮らし	123	122 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	613～617
7	2学期 前期	124 地域の暮らし	124	123 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	618～622
8	2学期 前期	125 地域の暮らし	125	124 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	623～627
9	2学期 前期	126 地域の暮らし	126	125 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	628～632
10	2学期 前期	127 地域の暮らし	127	126 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	633～637
11	2学期 前期	128 地域の暮らし	128	127 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	638～642
12	2学期 前期	129 地域の暮らし	129	128 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	643～647
1	2学期 前期	130 地域の暮らし	130	129 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	648～652
2	2学期 前期	131 地域の暮らし	131	130 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	653～657
3	2学期 前期	132 地域の暮らし	132	131 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	658～662
4	2学期 前期	133 地域の暮らし	133	132 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	663～667
5	2学期 前期	134 地域の暮らし	134	133 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	668～672
6	2学期 前期	135 地域の暮らし	135	134 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	673～677
7	2学期 前期	136 地域の暮らし	136	135 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	678～682
8	2学期 前期	137 地域の暮らし	137	136 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	683～687
9	2学期 前期	138 地域の暮らし	138	137 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	688～692
10	2学期 前期	139 地域の暮らし	139	138 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	693～697
11	2学期 前期	140 地域の暮らし	140	139 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	698～702
12	2学期 前期	141 地域の暮らし	141	140 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	703～707
1	2学期 前期	142 地域の暮らし	142	141 地域の暮らし	(1) 177～178、21 (2)	7

どのような道具がかわってきたのかな」「道具のほかにも、古いものを調べてみると、市のうつりかわりがもっとわかるのではないかな」と活動を促す文章が書かれている。しかし配当時数の1時間では洗濯機やガスコンロなどの道具の移り変わりを調べて、その変化を発表する活動を行うのが精一杯である。教科書P. 136には「はくぶつ館に見学に行って昔のくらしについて調べよう」とあるが、社会科時数だけでは足りないので、学校行事等と合科するなどの工夫が必要となる。

単元のまとめでは「市のうつりかわり」を年表にしている。年表の縦軸は「70年～60年ほど前」「50～40年ほど前」「今」、横軸は「駅前の様子」「交通」「土地の使われ方」「人口」「公共しせつ」「くらしの道具」「わかったこと・気づいたこと」である。「くらしの道具」の変化は「かんたんな道具や手づくりのものが多い」→「電気を使ったものがふえた」→「べんりな道具がふえた」とまとめている。「わかったこと・気づいたこと」の欄においては70～60年程前は「田や畑が多く、生活に使われる道具もかんたんなものが多い」→50～40年程前になると「高速道路や新かん線、公共しせつがつくられ、新しいくらしの道具も使われるようになり、くらしが便利になった」とあり、今の部分は空欄となっていて児童に考えさせる余地を残している。このような流れでは児童が「昔は遅れていて、今は進んでいる」という安易な感想を持ってしまう懸念がある。昔も今もその時代に生きた人々の工夫と知恵によって、暮らしは向上し、移り変わっていることを理解させるためには、その道具が使われるようになった人々の様子や社会的背景を指導者がどのように捉えているかが大切となる。

2-2. 教育出版の“昔くらし体験”の扱い

教育出版の第3学年社会科の年間指導計画は図3⁽⁵⁾の通りである。

「わたしたちの市の歩み」の単元は全16時間であり、そのうち「かわる道具とくらし」に6時間、「市のうつりかわり」に9時間の時数配分である。

教育出版では「わたしたちの市の歩み」の単元目標を、「地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする」としている。まず導入のオリエンテーションで、昔と今の町の様子の変化に関心をもたせ、地域で使われている昔の道具に注目させる。そして人々の生活の変化を学習し、その上で地域の様子の移り変わりを学習していく流れである。そのため単元構成が「かわる道具とくらし」と「市のうつりかわり」の二つに大きく分かれている⁽⁶⁾。

「かわる道具とくらし」は6時間扱いで、その内訳は「①昔の道具」「②学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」「③郷土資料館をたずねて」「④昔のくらしをインタビューする」「⑤かわってきたくらし」「⑥道具とくらしのうつりかわりのまとめ」であり、「市のうつりかわり」の9時間の内訳は「①かわるまちの様子」「②学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」「③交通はどのようにかわったかな」「④土地の使われ方はどのようにかわったかな」「⑤人口はどのようにかわったかな」「⑥公共しせつはどのようにかわったかな」「⑦年表を書き足そう」「⑧年表を見て話し合おう」である（図4参照）。

新学習指導要領における“昔くらし体験”の扱い

学年	月	市（市の学年）	教科書
一学期	4月	1 われも品物ゆかりの オリエンテーション 2 まちの様子	11 ① ②
	5月	3 町の様子	③
	6月	4 はたらく人とはなにかをめぐらし オリエンテーション 5 店ではたらく人と仕事	④ ⑤ ⑥
	7月		
二学期	8月		
	9月	6 つなげる 7 工場ではたらく人と仕事 ノスタルジック（郷土新聞）	⑦ ⑧
	10月	8 郷土資料館をめぐらし オリエンテーション 9 公園からまちまで	⑨ ⑩ ⑪
	11月	10 つなげる	⑫
三学期	12月	11 町でやまぐさのまちをみる	⑬
	1月	12 われも品物ゆかりの オリエンテーション 13 かわる道具とくらし 14 かわる道具とくらし	⑭ ⑮ ⑯
	2月	15 かわる道具とくらし 16 つなげる	⑰ ⑱
総計数			20

図3 教育出版の年間指導計画



図4 教育出版「大単元の構成」

小単元「市のうりかわり」の前に小単元「かわる道具とくらし」があり、6時間という時間が確保されている。その中で「道具がかわること、人々のくらしはどのようにかわってきたのだろうか」という学習問題を解決するために、郷土資料館を訪ねて、最終的には道具と人々のくらしの移り変わりをまとめている。この学習計画は、旧指導要領の「昔の道具と人々の暮らし」と同様な学習を可能にしている。

教科書には、ごはんをたく道具としてかまど、魚を焼く道具として七輪、粉をつくる道具として石臼、稲から粳を取る道具として千歯こき、洗濯機の昔道具として洗濯板、1958年の農家の台所、1969年のテレビを見る家族、1974年のめんこ遊びの写真などが掲載されている。

本単元では横浜市を取り上げて説明しているが、「かわる道具とくらし」の中には「横浜市」というキーワードが一切登場しない。「かわる道具とくらし」の扱いに際し、副読本ではなく教科書で授業を進める学校への配慮がみられる。

2-3. 日本文教出版の“昔くらし体験”の扱い

日本文教出版の第3学年社会科の年間指導計画（「市のようすとくらしのうつりかわり」）は図5⁽⁷⁾の通りである。

図6⁽⁸⁾の単元計画からわかるように「市のようすとくらしのうつりかわり」の単元は全16時間であり、導入を抜いた「うつるかわる市とくらし」の内訳は「①②博物館の見学」「③昔の交通のようす」「④ふねが使われていたころ」「⑤ふねが使われていたころ～大火事があったころ～」「⑥鉄道が通ったころ」「⑦鉄道が通ったころ～人びとのくらし～」「⑧高速道路ができたころ」「⑨高速道路ができたころ～人びとのくらし～」「⑩川越市の今～くづりの町なみを生かす～」「⑪川越市の今～交通のはったつ～」「⑫⑬年表にまとめる」「⑭市の取り組み」「⑮川越みらいプラン」（○は時数配分）である。

新学習指導要領における“昔くらし体験”の扱い

[illegible]

図5 日本文教出版年間指導計画

[illegible]

図6 日本文教出版 単元構成

この単元では追究する時代区分を「舟が使われていたころ（およそ150年から100年前）」「鉄道が通ったころ（およそ130年から70年前）」「高速道路ができたころ（およそ50年前）」「今」の四つとして、それぞれの時期の市の交通・公共施設の整備、土地利用や人口、生活の道具など、市や人々の生活の様子を調べる流れとなっている。生活道具だけに注目すると、鉄道が通ったころに使っていた道具として石油ランプ・火鉢・洗濯板とたらい・かまど、1950～60年代に使っていた道具として電灯・石油ストーブ・ローラー式洗濯機・電気がま、1970～80年代に使っていた道具として蛍光灯・クーラー・二層式洗濯機・自動炊飯器が挙げられている。

単元冒頭にある2時間扱いの「博物館の見学」は、その後の「わたしたちがくらす市は、どのようにかわってきたのだろう」という学習問題を明確にするために配置されている。昔のくらしに関心をもたせるために、明かりの道具のうつりかわり「あんどん→石油ランプ→電とう」、交通のうつりかわり「ふね→鉄道→高速道路」が例示されている。日本文教出版の特徴は、単元を通して川越市立博物館を中心に取り扱っている点である。博物館学芸員の話として「博物館には昔の道具や人びとの生活のようすがわかるものがてんじしてあります。じっさいに体験できるものもあり、たとえば昔の子どもたちが遊んでいためんこなどの道具で遊ぶこともできます。そこで、昔の人のちえや思いを考えてみると楽しいですよ」とあり、博物館の見学の仕方も明記している。

川越に特化した単元構成であるので、教科書を通して３年生の児童が自分の市の問題として置き換えられるのが難しい。そのため多くの学校がこの単元を副読本に置き換えて学ぶことが考えられる。副読本の改訂年度にもよるが、副読本が旧学習指導要領の「今と昔のくらしの移り変わり」のままであれば、その流れで行う学校も多いのではないかと考えられる。

3. 小学校社会教科教科書採択状況（令和2～5年度）⁽⁹⁾

東京都（島しょ部を除く）公立小学校の採択状況は以下の通りである。博物館・郷土資料館は、所在地及び隣接する地域がどの教科書を採択しているかを把握し、教科書や市町村発行の副読本に応じた対応を期待したい。

3-1. 東京書籍（計28校＝56%）

千代田区・港区・文京区・台東区・江東区・大田区・渋谷区・世田谷区・中野区・杉並区・北区・江戸川区・荒川区・武蔵野市・三鷹市・町田市・小金井市・西東京市・東大和市・福生市・清瀬市・東久留米市・武蔵村山市・多摩市・稲城市・羽村市・あきる野市・西多摩市

3-2. 教育出版（計16校＝32%）

中央区・新宿区・墨田区・品川区・目黒区・板橋区・練馬区・葛飾区・八王子市・青梅市・立川市・昭島市・調布市・日野市・国分寺市・国立市

3-3. 日本文教出版（計6校＝12%）

豊島区・足立区・府中市・小平市・東村山市・狛江市

4. 教科書別対応実践案

4-1. 東京書籍採択学校向け対応案

東京書籍では「市のうつりかわり」の一つとして、人々の暮らしの移り変わりを扱っている。そのため道具だけでなく、鉄道や人口など様々な内容の昔と今を比較し、最後に時代別の年表を作る可能性が高い。

教科書が扱う時代区分は3つである。現在を2020年とすると、「70～60年ほど前」は1950～1960年であり、「50～40年ほど前」は1970～1980年である。小学3年生は8～9歳であるので、その親世代は1980年代前後の生まれ、祖父母世代は1950年前後、曾祖父母の代は1930年代前後生まれが多いものと推測される。祖父母でさえ戦後生まれの3年生にとって、教職員が子ども時代に体験した“昔くらし体験”はもはや歴史体験となる。旧学習指導要領（平成20年版）で行われていた火鉢体験や石うす体験などは歴史体験の部類となることを指導者は意識することが必要である。体験のねらいとともに、博物館で体験活動を行う場合は「昔とはいつのことを想定しているか」を学校と博物館が相互に確認する必要がある。

「昔から今に至るまで、暮らしをよりよくしようとする人々の願いによって、道具は様々な工夫され使われ変化してきており、人々の生活も変わってきた」ことを理解させる活動として、例えば「かまど体験」が挙げられる。かまどはしゃがまなければ、薪を入れることができず、また空気を送り込むこともできない。姿勢の苦労を実感させるという取組み例である。この体験により、暮らしをよりよくしようとする人々の願いによって道具は様々な工夫されてきたことが実感できると考えられる。ただ、東京書籍の場合、本単元の配当時間の中に博物館等に訪れる時数が確保されていない。かまどの火入れはそれなりに時間がかかるので、滞在時間等の要望を博物館側と打ち合わせする必要がある。

4-2. 教育出版採択学校向け対応案

教育出版は人々の暮らしの移り変わりを学んだ上で、横浜市の町の移り変わりを学ぶ学習計

画である。人々の暮らしの移り変わりの学習を旧学習指導要領の流れで行うことが可能である。新学習指導要領の「主体的な学び」を加味するのであれば、「問題意識をもつこと、予想すること、学習計画や追究方法を考えること、学習の振り返りや新たな問題を発見すること」といった問題解決的な学習を取り入れる必要がある⁽⁶⁾。

教科書P. 130～133にある「昔の道具を調べて、それぞれ絵カードにまとめる」活動を実施する場合は、昔をいつの時代にするのかを限定し、その時代の道具の使い方を取材や体験を通して調べ、その成果を交流することで、その時代の人々の生活を考えられるとよい。

P. 134にはメンコ遊びが載っている。昔遊びに関しては、その時代だけの楽しみではなく、現在の児童が体験しても楽しさを共感できると考えられる。メンコ遊び・コマまわし・輪まわし・ベーゴマ・羽根つき・竹馬などを知り、実際に体験することで、児童は新しい遊びを獲得し、遊びの世界（幅）を広げることができると考える。近年学校の教職員は急速な若返り傾向にあるので、メンコやベーゴマなどの遊び方を教えられる年長者に協力してもらうとよい。

4.3. 日本文教出版選択学校向け対応案

教科書は川越市の歴史とともに、そこに生きる人々の生活を理解するという流れであり、昔と今の市の様子や人びとのくらしの変化を知り、関心を持つために博物館を見学する。「わたしたちがくらす市は、どのようにかわってきだのだろう」という学習問題をつくり、学びを深めていき、最終的に調べたことを振り返りながら年表にまとめるという単元計画である。

古い順に年表をつくりたいのであれば、「舟が使われていたころ（およそ150年から100年前）」「鉄道が通ったころ（およそ130年から70年前）」「高速道路ができたころ（およそ50年前）」「今」の4分類のそれぞれの昔の道具を扱う必要がある。教科書には川越市の出来事と人々の暮らしを年表に整理する活動がある。年表は縦軸を「市の出来事」「くらしと道具」の二つに分け、横軸は10年ごとに印がつけられているが明治・大正・昭和・平成と整理されている。しかしこの年表の横軸と単元内の分け方が違うのでそのことを留意しなければならない。

5. 新学習指導要領に対応した博学連携プログラム案

5.1. 「昔くらし体験」の取扱いと内容における留意点

教育出版の教科書や各自治体の副読本による授業においては、従来の「昔くらし体験」の内容を引き続き継続する場合がある。しかし内容は同じであっても、その扱いは新学習指導要領に準拠する必要がある。

新学習指導要領の「改訂の経緯」には「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」とある。つまり積極的に学びに向き合い（主体的な学び）、対話による協働を通して（対話的な学び）、知の再構築（深い学び）を目指すことが学校教育には求められている。児童にとって教育課程（学習内容）は、既に決められたもの（学習指導要領により決められたもの）を与えられることになるのだが、そこに主体性を持たせなければならない。そのためには授業者（指導者）は主体的・対話的に

なる仕掛けをつくる必要がある。その仕掛けとなるのが「考える必然のある『問い』」の存在である。授業者（指導者）は各体験において主発問ともいえる「考える必然のある問い」の設定をすることが大事である。また授業者（指導者）は、児童同士の対話が生まれ、「自分たちが授業を作り上げる」という実感が伴うような声掛けをしたり、気づいていない視点を提示したりするなど適宜必要な舵取りが求められる。その際、その体験において学ぶべき知識・技能を明確にし、確実な習得を図ることも忘れてはならない。体験後に自分が何を学び、どんなことを考えたのかを振り返ることを可能とするために、ワークシートの使用も効果的である。

内容に関しては、「昔は技術が遅れていて不便、今は技術が進歩していて便利」という安易な感想にならずに、昔の人はその時代背景に合わせて工夫した生活を送り、その工夫の連続で今があるということをつかませたい。児童は家事の時間短縮や労働の軽減などよいことばかりに注目するが、明治以降の急速な技術の進歩により環境破壊が伴うようになったのも歴史的事実である。現在は環境に配慮した家電が販売されている。また自然界の循環に沿った生活を営んでいた昔の生活のよさが、オーガニック人気・ミニマリストの存在・スローライフ推進などを通して、今日改めて見直されている。このように自然環境に配慮して生活する大切さに気づけたことも現代人の経験と知恵によるものである。

現在も昔の道具として教科書に取り上げられている洗濯板は百円均一店や無印良品などで販売されているし、昭和の道具とされている二層式洗濯機も家電量販店で販売され続けている。また伝統的なかまどに薪をくべて、炊き立てご飯を提供している店は行列のできるような人気店であるし、家庭用のガスの炊飯器は今でも需要がある。このように時間と労力といった手間が伴うが、そこから得られるよさや愛着があるからこそ、現在でも使われ続けている。未来に思考をつなげるためにも、このような視点も伝えていきたい。

5.2. 昔の道具体験案

「昔くらし体験」の体験内容として学校・博物館ともに七輪・石臼・洗濯板での体験が実施されることが多いである。しかしこれ以外の体験はあまりされていない。そこで筆者が体験例として考えられるものをまとめたのが図7（次頁）である。

5.3. 「暮らしの100年探検隊」の実施案

平成20年版では「昔の暮らし学習」は独立单元であったが、新学習指導要領では「市の様子のうつりかわり」の中に組み込まれた。そのため以前のような七輪や石臼体験よりも、道具（風呂・トイレ・台所・灯り等）を通してわかる暮らしの移り変わりに目を向けた活動が求められる。博物館内において特定の時代のモノだけでなく、時代の変遷がわかる展示があることが望ましい。郷土資料館や博物館（屋内）では、実物資料が時代別や用途別に整理されて展示されていることが多い。それに対して野外博物館では移築・復元された建物が展示されているので、その時代の生活を丸ごと捉えることができる。そのため、台所・便所・風呂などを比較させることで、くらしの移り変わりに気づかせる活動などが想定できる。例えば小金井市にある江戸東京たてもの園では、江戸・明治・大正・昭和の建物が比較的近い距離で見学可能である。各班にデジカメを持参させれば、活動実施後に学校で江戸東京たてもの園で撮った写真を比較し合い、道具を通して人々の暮らしの移り変わりを考える学習計画を立てることができる。

新学習指導要領における“昔くらし体験”の扱い

体験内容		活動の流れ	児童に気づかせたいポイント・後世に残したい知恵
掃除体験	ハタキを用いた掃除	埃を上から下に落とす。	・動力はすべて人間の力。（力の入れ方で物を大切にする気持ち育てる。）場所によって水で洗い流すと湿気で家を傷めてしまうため、濡らした新聞紙で埃を吸着させるとよい。ハタキは竹や枝と絹から作られて、すべて自然界のもの。絹は摩擦に強く、埃を拭う力が非常に強い繊維であり、静電気が起きないからこそ埃を払うことができる。（現在は静電気を起こして化学繊維に埃を付着させる方法が主流）くもりの日が「忍ふき日和」。空気中の湿気が汚れを浮き立たせ、光の反射が少なく汚れが見えやすい。新聞紙は捨てずに再利用。新聞インクが汚れを吸着させることができるからこそ汚れが落ちる。米のとぎ汁にはワックス効果につながるような成分が含まれているため、木につやを出し、コーティングして傷つきにくくなる。
	窓ふき掃除	①バケツで水を選んできて、丸めた新聞紙をタライの中の水にひたす。②新聞紙を軽く絞って窓ガラスの汚れをとる。乾いた新聞紙で水気をとる。	
	箒を用いた掃除	①バケツで水を選んできて、新聞紙をタライの中の水にひたす。②水に浸した新聞紙を細かくちぎる。③畳の上にちぎった新聞紙を敷き、埃を吸着させながら、奥から手前へとほうきで掃く。	
	床掃除	①米のとぎ汁で雑巾を濡らす。②雑巾の絞り方を学び（拭く前に雑巾の濡れ具合をチェック）、廊下を雑巾がけする。③袋にぬかを入れて、ぬか袋をつくり、木の柱や床を磨く。	
かまど体験		①藁もしくは新聞紙に火をつけ、薪に火をうつす。②空気を筒で送りながら、その時々に必要な火力をつくりだす。	燃料は薪と藁。薪をくべるタイミングや空気を送り込むタイミングと加減が重要。お米が炊けるときにおいて・火加減の大変さ・煙のけむたさ・火の熱さ（暑さ）→五感で感じる。目ははせない→お米へ感謝の気持ちを育てる。
洗濯体験		①水はバケツで運んでくる。②たらいと洗濯板を使い、ハンカチを石鹸と水で洗う。③脱水はローラー式洗濯機が用意できればそれで行う。④洗い板がある場合は板に貼って乾燥させる。	動力はすべて人間の力。洗濯機に比べて、使う水の量が少ない。化学洗剤を使わないので環境にやさしい。汚れを落とす大変さ→安易に汚さず、物を大切にすること育てる。
石臼体験		①石臼の構造や役割などの説明を聞く。②石臼に大豆を入れる。「何になるか」を問うことで、国語教科書が光村図書ならば「すがたをかえる大豆」を11月に学習済みなので、既習の学習を生かした体験となる。③一人ずつ順番に石臼をまわす。④石臼の周りに出てきた粉を集める。（石臼体験の後に七輪体験をする場合は、きな粉餅に使用すると必然性が生じる）	動力はすべて人間の力。目の前で食材が変化の様子を確認できる。一度でひけるわけはなく、運び分けも必要。まわす力が大変だからこそ、人々は知恵を働かせて、その後水車などに発展したことを知る。
七輪体験		①囲炉裏の周りに座り、囲炉裏や住まいの説明を聞く。②自在鉤（横木）の説明を聞き、実際に動かす。③囲炉裏から火のついた炭（オキ）を取る。④囲炉裏から取り出したオキを七輪に移し、木炭に火をおこす。⑤網の上に餅（もしくはスルメ）を置き、焼く。	燃料は石炭。七輪は持ち運び移動可能。動力は人間の力であくぐ団扇の風。（煙や灰が飛び散るので力の入れ方が重要）目ははせない→食への感謝の気持ちを育てる。焼けるときのおい。火加減の大変さ→自分好みにカスタマイズできる→現在でも焼肉屋で利用。煙が出るので風向きを判断する力が必要。
火鉢体験		①囲炉裏の周りにすわり、囲炉裏・住まいや道具の名称の説明を聞く。②囲炉裏から火のついた炭（オキ）をとる。③火鉢で使用する道具の説明を聞く。④囲炉裏から取り出したオキを火鉢に移し、木炭に火をおこす。⑤道具を使って、灰をきれいにする。⑥炭を火消し壺に入れて消火する。	炭も灰も再利用できるのでゴミが出ない。家の造りが隙間風だらけなので、暖房は必須。換気が必要なのでずっとつけ続けることはできない。平安時代の枕草子の冬の勤めの話から1300年前から続いていた文化とわかる。
おばあちゃんの知恵体験	例 手ぬぐい活用法 （瓶の包み方・ボールの包み方・エコバックなど）	アレルギー対応や食べる行為に抵抗がある児童（学校）でも実施可能。指導者が風呂敷の包み方の見本を見せ、教わった内容を児童が実際に体験する。髪の上に付いたガムがビーナッツバターでとれることや、土野菜は冷蔵庫でも縦に収納するとよいなど、昔の生活の知恵の話を紹介するとよい。児童が家に帰った時に、誰かに言いたくなるような知恵の話を取り上げるとよい。	バックを何個も持つのではなく、一枚の布ですべて賄える→昔の人は知恵を生かした生活を送っていたことがわかる。エコにもつながる。
	薪割体験	①木と藁でできた背負子の説明を受ける。②背負子は今でも登山で利用されていることから、昔の知恵が今に残っていることを知る。③別の場所にある薪を作業するところまで背負子で運んでくる。・薪をなたを使って割る。（斧で本格的に割るのではなく、なたを用いて割る。なたの重さ体験）	すべての道具が木と藁で作られている。背負うことで両手を使える。重い物を子どもでも運べる。子どもの仕事として家庭を助けていたことを知る。鉈の重さを知ること、昔の作業の大変さを知る。
米の歴史体験	脱穀体験	千歯こきを用いて脱穀する。	動力はすべて人間の力。稲穂から精米までの過程を知る。昔の人の工夫と知恵から作られた道具を知る。作業の大変さを知る→米への感謝の気持ちを育てる。
	唐竿体験	唐竿で糊摺りして糊と糊穀に分ける。	
	唐箕体験	唐箕を用いて（中の風車を回転させ、風を起こす）糊と糊がらや藁くずをより分ける。	
	精米体験	一升瓶（持ち帰らせる場合は小瓶）の中に木の棒を入れて精米する。	
縄づくり体験	縄打ち体験	木槌を用いて縄を叩いて柔らかくする。	米を取り終えた後の稲（藁）を利用し、そこから生活の道具を作り出した知恵と工夫。昔の人の手先の器用さ→「便利なくらし」がもたらしたことについて考える。
	縄より体験	柔らかくなった縄を手で撚って縄にしていく。	
昔運び体験		①天秤棒を用いて肥溜め等（肥溜めの代わりに同量の重さを用意する）を運ぶ。②背負子を用いて薪を運ぶ。③一輪車（備車）で肥料等を運ぶ体験。大八車を用いて米俵を運ぶ。	昔の道具は写真では簡単そうに見えるが、扱うにはコツがあることを知る。生活の中で自然と身体が鍛えられたことを知る。
畳に潜む昔の知恵体験		①畳の作り方②畳上げ（天日干しをすることにより防湿・防虫効果がある。水害の際に畳を移動することができる）③畳のメンテナンス（畳は裏返し・表替えをすることができる）	使い捨てではなく、工夫して物を大切に使用していた知恵を知る。
昔の生活追体験	雨戸の役割（防風・防犯・遮光・目隠し）	内側からしか鍵がかけられない・戸袋に収まること等を知る。	昔の生活を追体験することで、昔の人の知恵と工夫を知る。
	蚊帳体験	蚊を入れずに蚊帳の中に入る体験	
	黒電話	電話のかけ方を知る。110や119の番号の由来を知る。	
暗やみ体験		①日本家屋（吉野家の真ん中の部屋で行うのが良い）の暗さを体験する。②雨戸を閉める→部屋の暗さを体験・雨戸の役割（防風・防犯・遮光・目隠し）・内側からしか鍵がかけられない・戸袋に収まること等の昔の知恵を知る。③行燈やロウソクなど昔の明かりだけが灯る室内で、昔の明るさを体験する。	日本家屋の部屋の暗さを体験することで、闇の暗さと光の大切さを知る。雨戸や鍵の仕組みを知り、昔の人の工夫と知恵を知る。火を扱うために、管理が大変なことを知る。
火打石体験		火打石と火打ち金を使って火をおこす。	マッチ以外に火をつける道具があったことを知る。火をつける行為が難しいことを知る→火は貴重。相手の無事を祈るために、現在でも縁起を重視する際に火打石を使う風習が残っていることを知る。
着物に潜む昔の知恵体験	着付け体験	おはしよりの作り方	浴衣は丈のサイズを自分用にカスタマイズできる。反物（元）に戻せるため、何度もリメイク可能であることを知る。成長（体型変化）に応じて、作り直せるという工夫の知恵を知る。木に張り付けて太陽光で乾かすことで、殺菌効果・しわ伸ばし効果があること（知恵と工夫）を知る。
	洗濯体験	板張りでの洗ひ方	
	着物の構造を知る	端縫い：着物をほどいて、並べかえると反物の状態にもどすことができる工夫と知恵を知る。	
	洗い張り体験	反物に戻したものを洗い、板に貼って乾燥させることで、縫い目がなくなり再利用できることを知る。実際に洗濯板で洗濯したハンカチを板に貼って乾燥させる。	
藁に潜む昔の知恵体験	真綿づくり体験	①藁の選別により生糸の原料にならなかった藁の利用法（真綿）を知る。②藁を煮て、セルシンを溶かす。③水につけて、蛹を取り出す。④木枠にひきのばす。	蚕が作った藁が商品となるまでの過程を知る。座繰り機ではすべて人間の力が動力。藁から商品にするまでの道具は木で作られ、自然のものから道具を作り出す知恵と工夫を知る。
	糸繰り体験	①藁を煮て、セルシンを溶かす。②みごぼうきで糸口を見つける。③撚りをかけながら、繰り機に糸をかける。	

図7 昔の道具体験案

6. 2020年度の都内博物館における「昔くらし」に関連する企画展

筆者がチラシで把握できた2020年度の昔くらしに関連する企画展を行っていた都内の博物館は以下の通りである。

博物館名	企画展名	会期	体験イベント	学校関連を明記
めぐろ歴史資料館	昔のくらしと道具展くらしのうつりかわり	12/5～3/7	足踏みミシン	○
杉並区立郷土資料館	昔のくらしと令和のくらし	12/19～2/28	炭、昔あそび	－
東村山ふるさと歴史館	むかしの暮らしと道具	1/8～3/7	－	○
くにたち郷土文化館	むかしのくらし展	1/12～3/14	蓄音機	－
武蔵野ふるさと歴史館	武蔵野のくらし、そのうつりかわり	1/16～4/22	－	○
東大和市立郷土博物館	道具今むかし	3/20～5/5	－	×

図8 2020年度昔くらし関連の都内博物館の企画展

学校連携をチラシに掲載している博物館は表（学校連携欄）の通りである。東村山ふるさと歴史館では「小学校社会科見学対応展示」と企画展名の上に掲げ、チラシ裏面上部に「小学校3・4年生の社会科見学に合わせて、例年開催している展示です。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年通りとはいきませんが、幼かった頃の思い出を、おじいさんおばあさん、おとうさんおかあさんがお孫さんやお子さんへ語り継ぐ場になれば幸いです。」と明記してある。くにたち郷土文化館は「民具案内関連企画展」と銘打っており、博学連携とは記載されていないが、展示室入口に「むかしの道具や技を動画で見よう！」とQRコードが掲載された配布資料が置かれていた。武蔵野ふるさと歴史館では「学校教育連携展示」とチラシ表面左上部と明記され、館入口の立て看板に学校団体が利用する日時が来館者に分かるように掲示されていた。なお都内ではないが、名古屋市立博物館の企画展「なごやのうつりかわり」のチラシ裏面左下部に「本展は、小学校3年生が校外学習で利用します。開催期間中の平日は、多くの小学生が展示室内で学習しており混雑が予想されます。ご了承の上ご観覧ください。」とあり、学校と来館者の両者への配慮が感じられた。

7. 新学習指導要領に準拠した企画展および博学連携実践例⁽¹⁰⁾

前述の通り、昨年度コロナ禍においても多くの博物館で「昔くらし」に関する企画展が開催された。町と暮らしの変化を意識している展示が多いが、モノだけが人々の暮らしから切り離されて陳列されている感じは否めない。その中で岐阜市歴史博物館の企画展「ちょっと昔の道具たち」はモノとそれを使っていた人の繋がりを感じやすく、明らかに新学習指導要領を意識したことがわかる展示構成になっていた。「博物館だより⁽¹¹⁾」には「平成8年度にはじまり、今年で25回目の開催を迎える展覧会。小学校3年生の社会科学習と連携している点も特徴です。「進歩する展覧会」の位置づけのもと、引率の先生方や来館者の声を活かし、毎年改良を加えています」とある。「毎年の改良」とは具体的には「展示構成や基本プログラム、学校ごとの



写真1 エントランス看板

子供の実態に応じた対応⁽¹²⁾」である。

この展覧会独自の取り組みとして「1.学校団体見学時にける一般来館者の入場制限（学校団体により制限人数に達するため）2.道具体験は予約のある学校団体のみ実施。利用時にはこまめな消毒をする。」を明示し、博物館のエントランスにはその日の学校利用が大きくパネルで表示され、来館者がわかるようになっている（写真1）。一般来館者によっては子どもがたくさん見学している時間帯ではなく静かな見学を望む人もいるため、学校と来館者の両者への配慮といえる。企画展において扱う「昔」を「150～40年くらい前の「ちょっと昔」と設定し、展示構成は子どもの生活に密着した「まちかど」「家のなか」「学校」に分け、再現展示をすることで生活の中で道具がどのように使われていたのかを知ることができるようにしている。第一展示室では昭和50年頃のことを漠然と捉えさせ、路地裏コーナーでは蓄音機・ジュークボックス等音での変化を体験することで時代を感覚に訴えけるとともに、壁面展示されている年表でその変化が起きた時代背景も同時に理解することができる。第二展示室ではひいおじいちゃんの暮らしていた頃という設定を理解した上で、戦時下の学校と当時の家の内外を見学する流れとなっている。昔のものを大量に展示するのでなく、新学習指導要領を意識し、現在使われている道具が、昔はどのようなものだったのか、道具のうつりかわりを具体的に紹介している点が特長的である（写真2）。このような展示は子どもによって興味を持つ道具が違って時代の変遷が追うことを可能にしている。さらにこの展示構成は学校団体利用の際に複数クラスを同時に活動できるように工夫されており、1展示室に1クラスずつ入室して同時に数クラスが活動できるようになっている。

コロナ禍においてボランティア活動が休止となり、従来行っていた歴博ボランティアによる「実体験（思い）と解説」を聞きながら当時の暮らしを追体験することができなくなった。そのため展示室での解説や体験補助は学芸員や職員が行うことになったが、子どもたちが助けを求めない限り説明は最小限に抑え、その代わりに子どもたちが「分かったつもり」になっている事象について再び問いかけて確かめるようにはたらきかけ、子どもたち自身で発見できるような仕掛けを施したという⁽¹³⁾。まさにこの仕掛けは「主体的な学び」のための「考える必



写真2 150～40年くらい前の道具の移り変わり

然のある「問い」である。

企画展では監視員が割烹着を着ており、実際にまちなかに居そうな雰囲気を醸し出すと同時に親近感を来館者に与えている。また展示室の出口には昭和の面影を再現した売店を設置し、実際に買い物をすることができる。その値段は一の位を0に設定するなど3年生が暗算で計算しやすいように工夫している。そのため買い物体験を組み入れることで算数科との合科を可能にしている。

8. 成果と課題

学習指導要領に準拠した展示を可能にした背景として、岐阜市の教育行政の仕組みが挙げられる。今回の展示は博物館学芸員だけでなく館所属の指導主事が担当している。現場の教員が、教育委員会の行政へ異動となるとき、指導主事として各課で働き、学校や教員の指導にあたるのだが、岐阜市歴史博物館には指導主事が歴史博物館と兼務している。そのため学校見学の対応だけでなく、学校向けの企画展等の会場構成から展示構成まで担当している。つまり現場教員を指導するようなベテラン教員が展示構成に関わっていることが大きな要因といえる。戸田孝（戸田2014）によると「博物館教員」と呼ばれる「博物館に在籍する教員」は都道府県立及び政令指定市立の博物館のうち半数近くに教員が配置されており、教員が学校団体利用への対応や学校などとの連携を担っている事例が約4割にのぼり、その勤務年限は3～5年が半数を占めることを明らかになった。追加調査（戸田2016）によると「博物館教員の博物館における役割、特に任命権者が配属に際して予め意図していた役割を考える上で職種の取扱いは本質的ではなく、専ら他の要因から考察する必要があることが確認された」とあり、教員在籍の有無と学校連携活動の実施との間に相関が認められるものの、そのような環境を整えるには行政による人事制度との関連に課題があると指摘している。この調査は5年前のものであり、現状は同じとは言えないが、コロナ禍で急速に進展したICT環境の変化により、岐阜市立歴史博物館のような「博物館教員」が展示担当も担っている博物館と学校（教室）がzoom等で繋がることで、見る視点を教えることができ、たとえ地域の博物館が従来の学習指導要領の対応をしても「暮らしの移り変わり」という視点を児童自らが持ち、見学することを可能にするのではないかと考える。これに関しては今後実践を重ねて検証していきたい。

おわりに

学校側からみた博学連携の課題として、教員の多忙化による打ち合わせ時間の確保の問題、活動実施にかかる経費の問題、授業時間枠の制約の問題などが先行研究において挙げられている。そのような問題が解決しないまま、小学校においては新学習指導要領が2020年に完全実施となった。新学習指導要領では各教科において「主体的・対話的で深い学び」が導入される。動機づけを大切にしたり、児童相互の対話に重点を置いたりする授業は、教授主義の授業に比べて一単位あたりにかかる授業時数は自ずと増える。学習指導要領では授業時数上の変更はないものの、外国語の導入や道徳の授業の教材化なども加味すれば、実質上教育内容は増え、授業時数の枠組の中での指導が厳しくなるばかりである。またコロナ禍により、課外授業の実施

も厳しい現状が続いている。このような社会状況のなかでは「昔くらし体験」の学習指導要領改訂における扱いのちがいを確認する余裕がなくなり、例え実施されたとしても「例年通り」「コロナ禍対策」が重要視されることが懸念される。しかし学習指導要領には法的拘束力があり、学校としては新学習指導要領における「昔くらし体験」の扱い方や内容の変更について対応しないわけにはいかない。そのためにも学習指導要領の変更内容を理解し、子どもにとって何が最善の方策なのかを考えながら活動内容を考える必要がある。

一方で日本の地域博物館の学芸員の多くは多業務を少人数で行っており、さらにコロナ禍対応等、仕事は増えるばかりである。学校と同様に博物館側も忙しさに追われ、打ち合わせ等の時間確保は難しいのが現状であろう。しかし博物館にとって収集・保管して大切に守り続けている文化財を後世に受け継ぐことが理念の一つであるならば、未来を生きる子どもたちへの教育にそれを活用することに疑念の余地はないはずである。現在コロナ禍対策の一環として団体の受け入れなど博学連携事業を中止している博物館は少なくない。しかし手指消毒の徹底や少人数グループでの活動などの対策を講じることで、コロナ禍でも体験活動を実施している博物館⁽¹⁴⁾はあり、博物館でのクラスターの報告もされていない。また学校現場がオンライン授業などICT環境の整備が急速に進む中、博物館ともオンラインで繋がることで移動時間・費用等の心配もいらなくなる。オンラインで学芸員から見る視点を教わることで、地元の博物館において児童が見る視点をもって主体的に見学することが期待できる。

感染対策への正解が見えない状況での教育活動に対し、学校・博物館ともに日々模索が続いているが、義務教育を担う学校と社会教育を担う博物館の両者が、これからを生きる子どもたちのために新学習指導要領などが求める「新しい教育」に応じた活動の実現にむけて動き出すことを期待したい。

最後に、ご多忙中にも関わらずお話をいただいた岐阜市歴史博物館の若森美恵子氏にこの場を借りて心より感謝申し上げたい。

註

- (1) 文部科学省総合教育政策局、国立教育政策研究所教育課程研究センター「令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」令和3年10月1日（オンライン開催）によると全国学力テストの作成意図は学習指導要領への理解及びそれを具現化し、指導改善に活かすことが目的であると明言している。つまり裏返せばそれだけ現場が学習指導要領の変遷に準拠した教育ができてきないと受けとめられる。
- (2) 筆者が博物館でアルバイトをしていた時（2020年度）に「新しい博学連携の案を出してほしい」という仕事を依頼された。
- (3) 東京書籍「令和2年度 年間指導計画作成資料「新しい社会」第3学年 単元一覧表」（最終閲覧日2020年8月11日）https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/shakai/data/shakai_keikaku_r_3_20200214.pdf
- (4) 東京書籍「令和2年度 年間指導計画作成資料「新しい社会」第3学年 知識の構造図」

- https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/shakai/data/shakai_kozozu_3_20200214.pdf
- (5) 教育出版「年間配当時数一覧（三学期制）」（最終閲覧日2020年8月11日）https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/shakai/files/r2shakai%20haitoujisu%20sangakkisei_2004.pdf
- (6) 教育出版「年間指導計画・評価計画（案）」https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/shakai/files/r2shakai3_nenkeihyouka_2004.pdf
- (7) 日本文教出版「令和2年度版 年間指導計画案・評価規準 3年」（最終閲覧日2020年8月11日）https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r2/r2_shakai_nenkei_ichiran.pdf
- (8) 日本文教出版「単元構成一覧（令和2年度）」https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r2/r2_shakai_nenkei_3.pdf
- (9) 東京都教育委員会「令和2～5年度使用教科書採択地区別の採択結果（公立小学校）」（最終閲覧日2020年8月11日）https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/textbook/adoption_policy_other/adoption_result/results_2020_public.html
- (10) ぎふ魅力づくり推進部岐阜市歴史博物館学芸係（岐阜市教育委員会 社会・青少年教育課 兼務）若森美恵子氏へのインタビューによる内容
- (11) 岐阜市歴史博物館2021.2「企画展 ちょっと昔の道具たち」『博物館だより No.107』
- (12) 若森美恵子2021「楽しく学びながら歴史に親しむ」『初等教育資料』令和3年7月号 No.1009、pp.80-81
- (13) 一般向けの体験活動としては、杉並区郷土博物館の「炭を使うくらしを体験しよう！」「昔のあそびを楽しもう！」2021年1月16・17日、2月13・14日実施、くにたち郷土文化館の「蓄音機でレコードを聞いてみよう！」2021年2月27日実施などがある。両館ともに2020年度の小学校3年生の団体受け入れも実施している。

参考文献

- ・安野功ほか編著2018『平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理社会』東洋館出版
- ・戸田孝・中村公一 2011「ミュージアム・ディーチャーに関する調査報告」五月女賢司編『学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして』国立民族学博物館、pp.48-49
- ・戸田孝 2014「博物館教員に関する全国調査」『科学教育研究』第38巻、第4号、pp.248-259
- ・戸田孝 2016「教員を学校以外へ配属する場合の人事制度の地域差」『科学教育研究』第40巻、第1号、日本科学教育学会、pp.92-97
- ・戸田孝 2016「博物館総合調査に見る「博物館教員」の現状」『日本の博物館総合調査研究』平成27年度報告書、pp.166-175
- ・若森美恵子2021「楽しく学びながら歴史に親しむ」『初等教育資料』No.1009、pp.80-81